

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第32週 (8月7～13日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	204	8415
<b>[3類]</b>		
コレラ		1
細菌性赤痢		23
腸管出血性大腸菌感染症	71	1815
腸チフス		26
パラチフス		6
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	7	368
A型肝炎	1	34
エキノコックス症		9
エムボックス <sup>1)</sup>	1	186
オウム病		6
回帰熱	1	13
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	2	104
チクングニア熱		2
つつが虫病		108
デング熱	4	59
日本紅斑熱	13	226
日本脳炎	1	1
ブルセラ症		1
マラリア	1	11
ライム病	1	18
レジオネラ症	26	1291
レプトスピラ症		8
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	4	304
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	2	155
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	28	1109
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>	1	37
急性脳炎 <sup>5)</sup>	9	335
クリプトスポリジウム症		5
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	90
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	511
後天性免疫不全症候群	13	595
ジアルジア症	2	30
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	339
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	11
侵襲性肺炎球菌感染症	18	1108
水痘 (入院例に限る)	5	238
梅毒	158	9213
播種性クリプトコックス症	1	106
破傷風	2	65
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	79
百日咳	12	568
風しん		11
麻疹		22
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	5082	1.07
新型コロナウイルス感染症	67070	14.16
RSウイルス感染症	3729	1.23
咽頭結膜熱	1681	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2944	0.97
感染性胃腸炎	7489	2.48
水痘	232	0.08
手足口病	2801	0.93
伝染性紅斑	37	0.01
突発性発しん	679	0.22
ヘルパンギーナ	5470	1.81
流行性耳下腺炎	144	0.05
急性出血性結膜炎	3	0.00
流行性角結膜炎	235	0.36
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	7	0.01
無菌性髄膜炎	18	0.04
マイコプラズマ肺炎	11	0.02
クラミジア肺炎 <sup>8)</sup>	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) <sup>9)</sup>	3	0.01
インフルエンザ (入院患者)	118	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	大分、宮崎、鹿児島
新型コロナウイルス感染症	↓	佐賀、石川、鳥取
RSウイルス感染症	↓	山形、高知、島根
咽頭結膜熱	↓	大阪、福岡、兵庫
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	鳥取、福岡、埼玉
感染性胃腸炎	↓	石川、大分、宮崎
手足口病	↓	島根、新潟、山口
伝染性紅斑	↓	栃木、岩手、長野
ヘルパンギーナ	↓	山形、岩手、長野
流行性耳下腺炎	↓	山口、岡山、埼玉、熊本
マイコプラズマ肺炎	↓	大分、静岡、神奈川

### ◆インフルエンザA (H1N2) 変異型ウイルス: 米国

8月4日、米国の国際保健規則 (IHR) は、PAHO/WHO に対し、ミシガン州で新型インフルエンザA (H1N2) 変異ウイルスのヒトへの感染例が確認されたと報告した。公衆衛生当局の調査によると、患者は農業フェアで豚への曝露歴があったが、入院に至らず、回復している。